



たけした さちこ
竹下 幸智子

にほんきょうさんとうつしぎだん
日本共産党津市議団

旧市町村枠を外したコミュニティバス再編を

問 第2次津市地域公共交通網形成計画の策定時期であり、路線の再編協議が進められている。この再編に当たって、片田地区や神戸地区から買い物や通院に久居地域へ向かう人が多いため、西郊地区から久居地域へのコミュニティバス路線を求めているがどうか。
また、他の地域においても、旧市町村の枠を外したコミュニティバス路線の再編の考えは。

具体的な路線の再編を検討中である

答 本年2月に高齢者の移動ニーズや外出の実態を把握するアンケート調査を行った。この調査に加え、合併後に運用してきたコミュニティバスの運行の検証、地域の利用者等からの意見を踏まえ、具体的な路線の再編の検討を行っている。
地域の移動ニーズに応えた生活の移動手段となるコミュニティバスとして、津市地域公共交通活性化協議会（自治会連合会、公募委員の市民の方々、公共交通の運行事業者、三重運輸支局などの関係機関および学識経験者で構成）において、現在、協議を行っているところである。

●その他の質疑・質問●

- 議案第125号・第126号から
- 卒園後に連携施設に入る子の安全と発育の保障、質の確保を
- 今まで保育料に含まれていた副食費は、無償にすべき
- 長谷山の麓の産業廃棄物中間処理施設での火災について、住民の不安にどう応えているのか
- 久居プールの適切な改修を
- 教員支援員の全校配置を
など



▲外出支援を保障するコミュニティバスの充実を



かとう みえこ
加藤 美江子

こうめいとうぎいんだん
公明党議員団

産後ケア事業で多胎児を持つ保護者の支援を

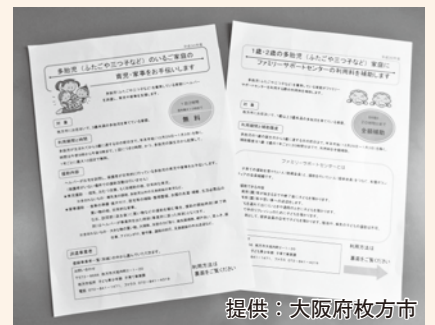
問 津市は、出産後早期から育児支援を行うことで、安心して育児ができる体制を推進することを目的として、「産後ケア事業」を平成26年11月から実施している。最近の3年間では、48名の方が利用しており、この中には多胎児を出産された方もいるが、現状は多胎児の育児への支援はない。今後、多胎児家庭への支援を考えていくべきだと思うが、いかがか。

多胎児の育児負担を考慮し検討していく

答 産後ケア事業の自己負担額については、津市産後ケア事業実施規則において委託料の1割と定めているが、現在多胎児の追加料金の設定はなく、2人目以降は、実費となっている。
今までに多胎児の家庭で産後ケア事業を利用したのは、双子家庭4組で、双子への授乳や育児全般に不安が強かった人、実母が体調不良で周りに育児の協力を頼みづらく、子育てに強い不安があった人などである。
多胎児の育児負担はやはり大きく、今後も産後ケア事業の対象者となることが多いと考えられることから、他市の状況を把握しながら、利用料金の設定について検討していく。

●その他の質疑・質問●

- 「断らない相談窓口」設置を
- 障がいを持つ全ての人に、自動車運転免許取得費用の助成を
- 障がいを持つ人たちの芸術活動の支援を
- 産婦健診の公費負担の実施を
- 避難所としての体育館へのエアコン設置を
- 防災士資格取得費用の助成を
- 「誰一人取り残さない」SDGsの教育を



提供：大阪府枚方市

▲津市でも多胎児支援を